

第31回日本乳癌学会学術総会

今輝き、未来を拓く
～ Evolution and Innovation ～



ランチオンセミナー5

最適な抗がん剤脱毛治療を探る

開催日時 2023年6月29日(木) 12:00～12:50

会場 パシフィコ横浜ノース 第5会場
3F G314-G315

座長

大分大学医学部
消化器・小児外科学講座 教授

猪股 雅史 先生

演者

毛包周囲環境から考える抗がん剤脱毛治療戦略

大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座 [アデランス]
准教授

河野 洋平 先生

※参加方法は学会HPをご覧ください
※当日ライブ配信も開催します
※オンデマンド配信は
2023年7月5日(水)～8月31日(木)の予定です



演者

大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座[アデランス]
准教授

河野 洋平 先生

毛包周囲環境から考える抗がん剤脱毛治療戦略

がん治療の進歩により生存期間が延長し、働きながら外来で治療を続けるがん患者や、がん経験者が増加している現代では、治療に伴う外見変化に対するサポートを行い、QOL向上を目指す取り組みがますます重要になっている。大分大学ではこれまで抗がん剤脱毛の治療開発研究を中心としてがん患者のルックスケアに取り組んでおり、今回抗がん剤脱毛の現状とこれまでの研究成果について報告する。

抗がん剤脱毛の病態について、抗がん剤投与により毛包周囲では血管もダメージを受け、その透過性が亢進することで抗がん剤が毛包周囲へ漏出し、さらに毛包へダメージが広がる。特に毛細血管が豊富な頭皮は影響を受けやすいものと考えられる。この病態に対し我々が注目する α リポ酸誘導体は毛包周囲の血管内皮細胞アポトーシスを抑制し、抗がん剤による血管透過性亢進を軽減する。さらに毛包周囲の酸化ストレスを軽減し、脱毛回復を促す可能性を示している。一方、現在最も臨床応用されている皮膚冷却法についても抗がん剤投与時に血管を収縮し透過性亢進を軽減する作用により、同様に脱毛予防または回復を促す作用を示すと考えている。

今後はこれらの有用な治療を組み合わせることにより、最適な抗がん剤脱毛治療が開発されることを期待している。

略歴等

【略歴】

2001年 3月 大分医科大学医学部卒業
2001年 5月 大分医科大学外科第一(研修医)
2007年 5月 大分大学医学部 消化器・小児外科 医員
2012年 3月 大分大学医学部 博士課程 修了
2016年 4月 豊後大野市民病院 外科部長
2017年-2022年 6月 大分大学医学部 消化器・小児外科
高度救命救急センター 助教
2018年-2019年 8月 米国Weill Cornell Medicine
Visiting Fellow

2022年 7月 大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座[アデランス] 准教授

【主な学会活動】

日本外科学会 専門医・指導医
日本消化器外科学会 専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 専門医
日本内視鏡外科学会 技術認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

MEMO

Aderans

